

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」




事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都市 】

1 実践テーマ	【 II 】
2 実施対象者	朱雀第六小学校 5年1組（30人） 3組（3人）：育成学級
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（ 総合的な学習の時間「共に生きる」 ）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	京都市に関わりのある身障者スポーツの選手と交流する中で、ご自身の努力や思い、子どもたちへの願いを知り、自分たちができることは何かを考える学習としていく。また、パラリンピック水泳の出場を目指している本校の6年児童や車いすを使用している1年児童への理解を深め、児童の人権意識を高めていく機会にもつなげていく。
5 取組内容	<p>事前学習として、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、オリンピックの歴史や競技種目・選手などについて調べ学習を進めた。後半には、パラリンピックへも目を向けられるよう工夫して学習を進めた。</p> <p>10月19日に、北京パラリンピック競泳で7位に入賞された北村友里選手から練習や大会での様子を聞き、車いすの体験活動を進めた。また、アジア大会での銅メダルを触らせてもらい、子どもたちは目を輝かせていた。北村選手の幅広い考え方や競技に真剣に取り組まれている姿勢から、今の自分たちの過ごし方について考えるヒントを多くいただくことができた。</p> <p>10月24日に、北京パラリンピック車いすバスケットチームのコーチとして参加された坂野晴男さんと、京都の車いすバスケットチームの山本英嗣選手・東武志選手の3名の方に来校いただき、車いすバスケットの話や競技のデモンストレーションを見せていただいた。その後、子どもたちも車いすに乗って実技指導を受け、簡単なゲームをすることで、車いすを使った競技への関心を高めることにつながった。前回の車いすとは違った車いすの扱い方に苦</p>



	 <p> 労しながらも、車いすの操作とボールの扱いを同時にすることの難しさを感じていた。 その後、車いすを使用している立場からの日常生活での困りを話していただき、子どもたちは自分たちがしていかなければならないことは何なのかを考える機会となった。 </p> <p> 事後学習として、パラリンピックの競技種目をさらに詳しく調べたり、競技をするための補助具などについて調べたりして、パラリンピックをオリンピック同様に身近なものとして考えられるようにした。 </p>  <p> 今後、周囲の人たちにパラリンピックのことを知ってもらおうと、自分たちで啓発活動を計画して学校内の他学年の友だちにプレゼンしたり、学校外に向けてはたらきかけたりしていく予定である。 </p> 
<p>6 主な成果</p>	<p> パソコンなどでパラリンピックについて調べていたときには、写真などを見て障害のある人がスポーツに取り組む姿を客観視して「大変そうだ」という感想をもっていた。しかし、実際にパラリンピックメダリストである北村選手の楽しい体験談やメダルを獲得するまでの努力や苦労話を聞くことで、身障者スポーツに対する壁が大変低くなった。さらに、車いすバスケット選手と一緒にゲームをしたことで、自分たちも障害のある人と共にスポーツで楽しむ時間が共有できるということを実感できた。 </p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p> ほんまもんに出会うことで、子どもたちの受け止め方に大きな教育的効果が見られる。本や資料から学ぶだけでなく、実体験から感じられたことを直接聞くことで、いろいろな人が社会の中でがんばってきいておられる姿を身近に感じられた。そして、体験談を聞いたり、体験をしたりすることで単に競技への関心をもつだけにとどめず、事前学習・事後学習をしっかりと進めていくことで、社会の中で「共に生きる」ために何が必要で大切にしていかなければならないかを子どもたち自身が考え、行動する学習へつなげていった。 </p>
<p>8主な課題等</p>	<p> 学校敷地内が十分にバリアフリー対応となっていない。指導していただく講師の方が不自由な思いをもたれないよう、できる限りの配慮をした。 学習計画を進めていくに当たり、ねらいに即した講師の方を見つけることに苦慮した。事前に協力いただける団体や個人の方のリストや情報があると、進めやすい。 </p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p> 引き続き、指定を受けられるのであれば、5年生を対象とした継続した取組としていきたい。また、車いすを使用している児童に対する理解が進むよう、いろいろな交流の機会も設け、校内だけでなく校外においても自然な形で子どもたち同士が触れ合える人間関係をさらに高めていく。そして、社会の中で「共に生きる」という視点を大切に、いろいろな障害のある方たちへの理解と自分たちにできる行動を考え、実践していく力が身につくよう学習を工夫していく。 </p>